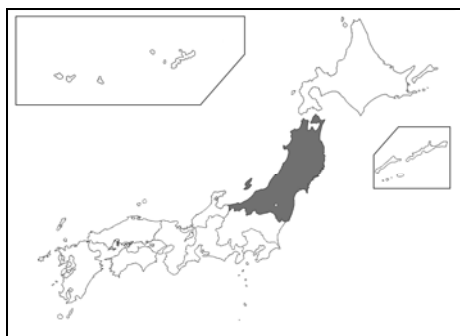


## (2) 東北



東北地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

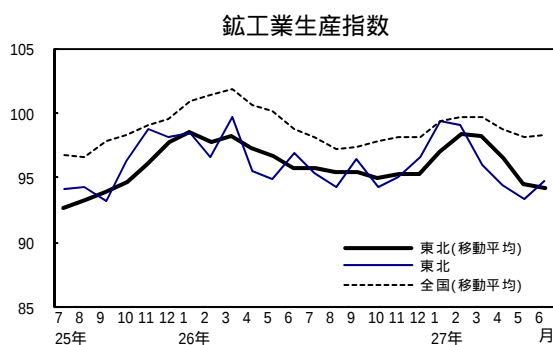
### 前回調査からの主要変更点

|       | 前回(平成27年5月) | 今回(平成27年8月)    |   |
|-------|-------------|----------------|---|
| 鉱工業生産 | 持ち直しの動き     | <u>おおむね横ばい</u> | ↓ |
| 住宅建設  | 大幅に減少       | 増加             | ↑ |

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、コネクタが携帯端末向けに好調だった影響などから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、超硬工具が前期に増加した反動などから減少した。食料品・たばこは、清酒が増加した。情報通信機械は、携帯電話・PHSが前期に増加した反動などから減少した。輸送機械は、自動車用エンジンが減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

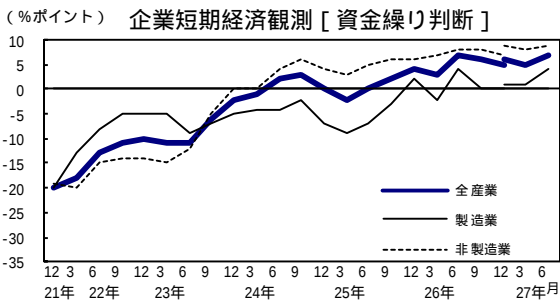
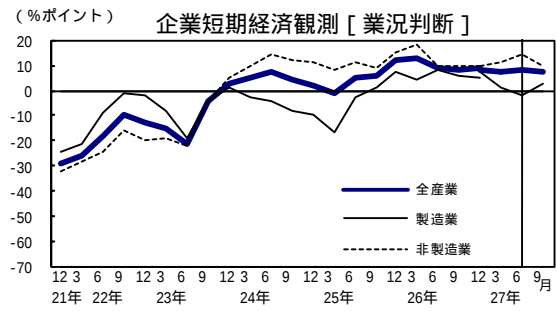
|               | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |           |       |      |      |
|---------------|--------------|-----------|-----------|-------|------|------|
|               |              | 1～3<br>月期 | 4～6<br>月期 | 4月    | 5月   | 6月   |
| 電子部品・デバイス     | 16.9         | 3.4       | 0.6       | 6.5   | ▲2.3 | 1.5  |
| はん用・生産用・業務用機械 | 14.7         | 2.4       | ▲5.4      | ▲9.7  | 3.6  | 4.7  |
| 食料品・たばこ       | 10.6         | ▲6.6      | 1.9       | 4.6   | 2.8  | ▲5.7 |
| 情報通信機械        | 9.2          | 4.7       | ▲19.0     | ▲14.1 | ▲2.0 | 8.7  |
| 輸送機械          | 8.3          | 6.2       | ▲5.0      | ▲2.7  | ▲2.1 | ▲0.8 |
| 鉱工業           | 100.0        | 2.9       | ▲4.0      | ▲1.5  | ▲1.3 | 1.5  |

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

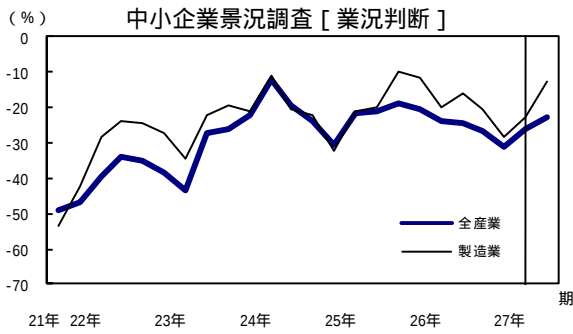
( 2 ) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

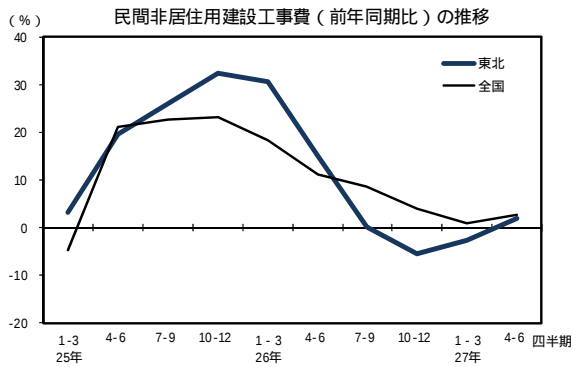
(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 ( 7 月 ) [ 企業動向関連 ( 現状 ) ]  
「従来にも増して得意先から値引きを迫られることが多い。また、定期発行物の価格見直しや仕様変更などによる事実上の経費削減のあおりを受けることが多くなっている ( その他企業 [ 企画業 ] )」などの回答がみられた。

( 3 ) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。



| 企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ( 6 月調査 ) ] |              |               |
|-------------------------------|--------------|---------------|
| ( 前年度比、 % )                   |              |               |
|                               | 26 年度実績      | 27 年度計画       |
| 全 産 業                         | 14.9 ( 3.7 ) | ▲8.4 ( 10.8 ) |
| 製 造 業                         | 29.3 ( 1.0 ) | ▲4.4 ( 16.3 ) |
| 非 製 造 業                       | 2.5 ( 6.8 )  | ▲12.8 ( 4.8 ) |

(備考) ( ) は前回 ( 3 月 ) 調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.3%減、5月は同0.5%減、6月は同1.0%減となった。

大型小売店販売額

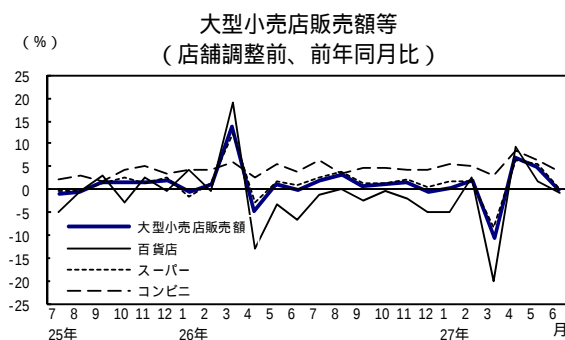
百貨店は、4月は、主力の衣料品は、前年の反動などにより前年を上回った。飲食料品は、精肉、鮮魚、総菜などが好調で前年を上回った。また、高額品にも動きがみられた。5月は、主力の衣料品は、気温が高かったことにより夏物・カジュアルを中心に動いたものの、婦人服がふるわず前年を下回った。身の回り品は、海外ブランド品や婦人ハンドバックに動きがみられ、前年を上回った。飲食料品は、精肉、鮮魚、総菜などが好調で前年を上回った。6月は、主力の衣料品は、夏物衣料がふるわず前年を下回った。身の回り品は、婦人ハンドバックや靴などがふるわず前年を下回った。飲食料品は、精肉、鮮魚、総菜が堅調に推移したほか、お中元が好調で前年を上回った。

スーパーは、衣料品、飲食料品ともに前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、48.7となり前月より0.1ポイント上昇した。

「暑くはあったが空梅雨で天気が良かったため、人出も多く売上の増加につながっている。ただし、全体的な景気浮揚というよりも、どこかを節約して必要な消費をするという、しっかりとした消費志向が根付いており、そういう意味では変化はみられない (商店街)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

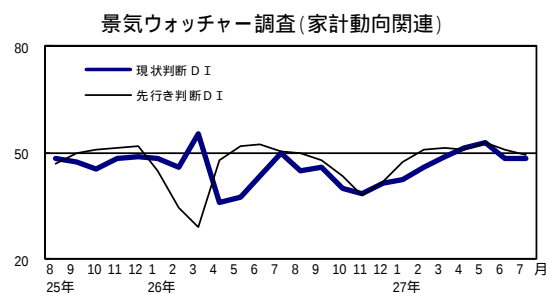
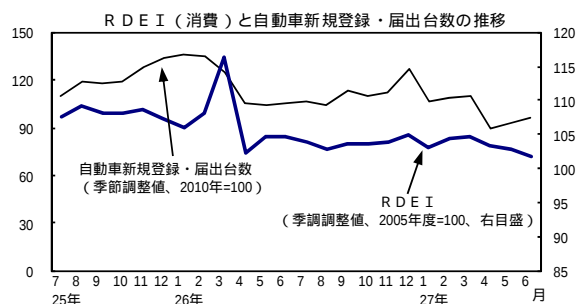


|             | 27年4-6月 | 27年4月 | 5月    | 6月   |
|-------------|---------|-------|-------|------|
| RDEI (消費*1) | ▲1.3    | ▲1.3  | ▲0.5  | ▲1.0 |
| 大型小売店(*2)   | 3.9     | 7.0   | 4.9   | 0.1  |
| 百貨店(*2)     | 3.2     | 9.2   | 1.9   | ▲0.8 |
| スーパー(*2)    | 4.1     | 6.6   | 5.5   | 0.3  |
| コンビニ(*2)    | 6.3     | 8.4   | 6.5   | 4.1  |
| 乗用車(*3)     | ▲11.1   | ▲14.5 | ▲12.3 | ▲7.2 |
| (季節調整値)(*3) | ▲14.1   | ▲18.3 | 3.1   | 4.2  |

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

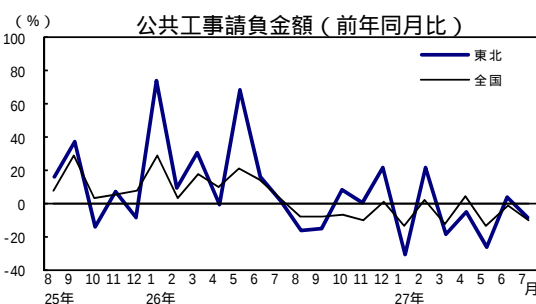
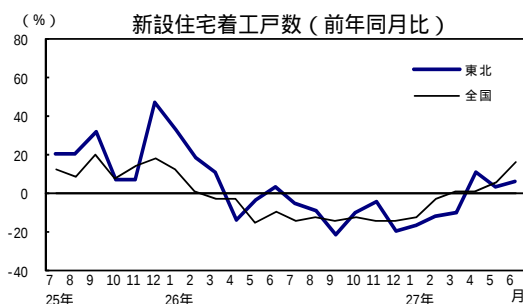
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、増加している。

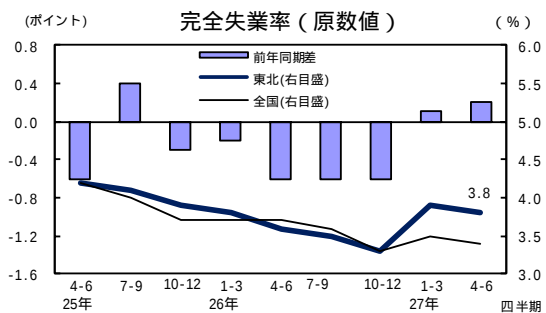
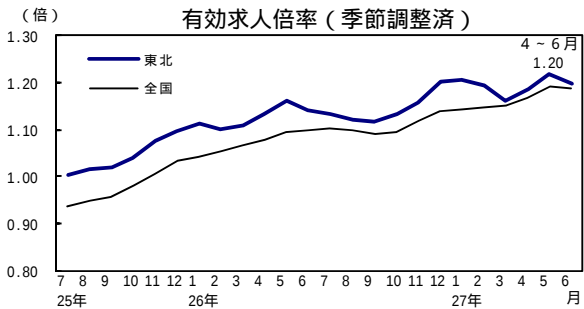
持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。

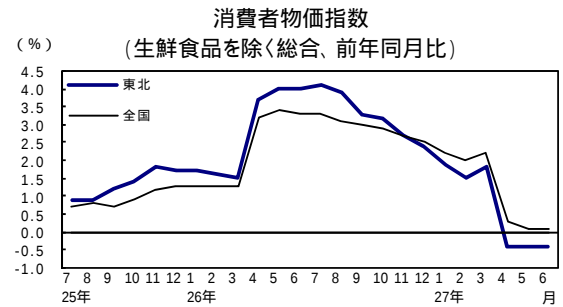


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]  
「就職活動をしている大学4年生の学生達がかかなり強気な就職活動をしている。内定をもらっても就職活動を止めずに、より大手を目指す動きが今月は一層強くなっている（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているものの、負債総額は減少している。  
(3) 消費者物価指数は、下落に転じている。

企業倒産

|       | (件、億円、%) |        |         |       |       |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
|       | 26年7-9月  | 10-12月 | 27年1-3月 | 4-6月  | 27年7月 |
| 倒産件数  | 112      | 97     | 117     | 109   | 29    |
| (前年比) | ▲0.9     | ▲19.2  | 0.0     | ▲1.8  | ▲29.3 |
| 負債総額  | 328      | 196    | 247     | 173   | 72    |
| (前年比) | 67.8     | ▲10.2  | 58.3    | ▲13.6 | ▲61.6 |



- 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]  
<現状>  
・販売量の微減状態が続いている。起爆剤として新商品を発売しても、思ったような受注に結びついていない（食料品製造業）。  
<先行き>  
・夏物の売上減少分は必ず次のシーズンに反映するとみており、秋冬物のシーズンに期待したい。ただし、各メーカーの商品はほとんど値上げとなるため、客の反応が心配である（その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕）。

